

水田たより 4月号

令和3年4月1日

JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

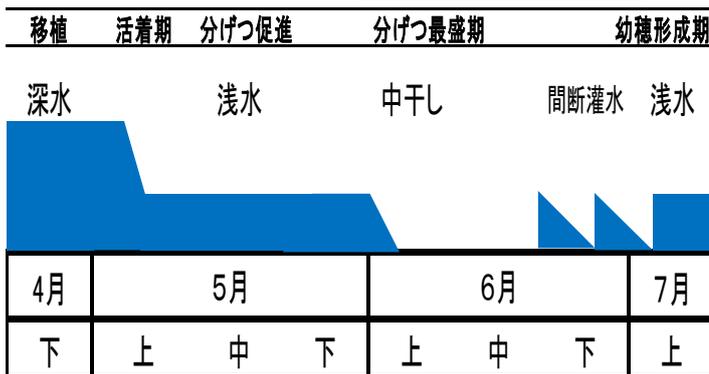
水稲初期の水管理

水稲の栽培管理において水管理はとても重要です。圃場に凹凸があると、水深ムラにより雑草や苗立ち不良が発生しやすくなり、収量が低下する場合があります。

移植前のこの時期に圃場の均平を整えるとともに、初期の水管理について再確認しましょう。

水管理の基本形

4月下旬移植の場合



①移植後から活着期まで **深水**

・移植直後は、風による水分の損失を防ぎ、除草剤の効果を保つため水深5～6cmとします。

・低温時は、日中は水深3～4cmの浅水、夜間は水深5～6cmの深水とします。

②活着期から分けつ期最盛期まで **浅水**

・水温を上げて分けつを促すため、水深3～4cmの浅水で管理します。

- ・深水は、葉先が水面から出ていれば問題ありません。
- ・中干し以降の水管理については、次号以降で掲載します。

水管理は、次のような対策にも効果があります！

ジャンボタニシの発生地域では…

代かき時にできるだけ圃場の凹凸をなくし、水深3cm以下の**浅水**で貝の活動を抑えることができます。

葉が固くなる移植後30日頃までは**浅水**で管理します。



水深のある部分に貝が集まり、食害が集中すると欠株となります。

シカの食害の発生地域では…

移植直後からできるかぎり**深水**にすることにより、シカによる**葉の食害を防ぐ**ことができます。

水深を稲の生育に合わせて徐々に深くし、中干しまで**水深7cm程度の深水**で管理します。



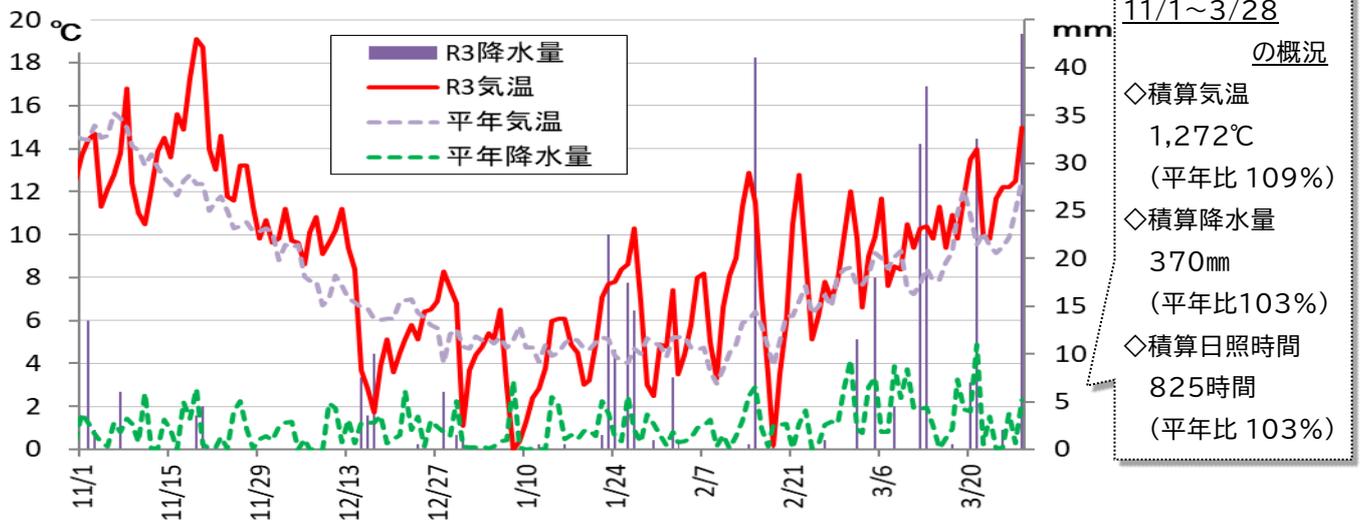
水管理の違いによる被害状況（移植後30日）

（滋賀県「水稲の深水管理などを組み合わせた被害対策マニュアル」から）

気象概要と麦の生育状況

現時点で麦の生育は、平年と比較して積算気温がやや高く、降水量・日照時間もやや多いため、良好です。11月上旬に播種した圃場の生育ステージは、平年と比較すると小麦・大麦ともに「やや早い」です。

■ 気象概況



■ 現在の生育状況 (11月上旬播種の場合、3月16,17日調査)

地域	品種	平年との比較		
		茎数	葉齢	幼穂形成
桑名・木曾岬	小麦「さとのそら」	やや少ない	やや早い	やや早い
いなべ・東員	小麦「あやひかり」	やや多い		
	大麦「ファイバースノウ」			

(平年：直近5カ年の平均)

■ 今後の管理

名古屋地方気象台の1か月予報(令和3年3月25日発表)によると4月の気温は高く、降水量は平年並みの見込みです。

4月は赤かび病の防除時期です。出穂期(※)から約7~10日後の開花期が赤かび病の防除適期となります。防除効果を高めるため、麦の生育状況を確認し、適期に防除ができるよう計画を立ててください。

※出穂期とは、全体の40~50%の茎から出穂した時期です。ただし、1茎内で穂の先端が少しでも葉鞘から出れば出穂茎とみなします。

赤かび病の予想防除時期 (あやひかり)

※桑名市の積算気温をもとに予測。

播種時期	11月上旬	11月中旬	11月下旬
予想防除時期	4月11~14日頃	4月16~19日頃	4月21~24日頃

さとのそら、ファイバースノウについても、あやひかりと同時期になることが見込まれます。

△今後の気象状況により変動します。

麦の生育状態を確認し、適期防除に心がけましょう△